



### 病診連携懇話会

たが、「ご自宅では新たに功しているので、今回も麻痺症状が出てきたため、新たな脳転移発症の可能性を含め、精査加療目的に再入院を依頼しました。

懇親会で病院の主治医と直接話してみると、当初は抗がん剤治療も行わずに自宅での看取りを含めて考えていました。再入院後は患者さん自身の治療への希望が、再入院直後は患者さん自身に戸惑い、少しづつ理解が深まると、今度もこのように見交換を行い、患者さん、病院長、我々も満足する形で診療を行なっています。

先日、とある基幹病院と直接話してみると、当初は抗がん剤治療も行わずに自宅での看取りを含めて考えていました。再入院後は患者さん自身の治療への希望が、再入院直後は患者さん自身に戸惑い、少しづつ理解が深まると、今度もこのように見交換を行い、患者さん、病院長、我々も満足する形で診療を行なっています。

患者さんは血液の癌の療に至るまでに苦労があつたことなどを聞けまうこととお互い納得しました。

緩和医療は、家で治療ができること、放射線治療や抗がん剤治療、場合によっては外科的治療など、病院で行うことを選択しなければなりません。

積極的な治療を行わな



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
 総合内科専門医・循環器内科医  
 ・日本循環器学会専門医  
 ・日本内科学会認定医  
 ・認知症専門医  
 ・認知症サポート医

治療や抗がん剤治療、場合によっては外科的治療など、病院で行うことを選択しなければなりません。

積極的な治療を行わな

**【まつばらホームクリニック】**  
 ☎ **042-439-1250**  
 西東京市東町 4-14-18-2F  
 (訪問中のため不在が多い)  
 ■電話対応: 午前9:00～午後6:00  
 ■定休日: 土日(祝日は診療)  
 ■訪問地域: 西東京市、東久留米、新座、練馬の一部  
 まつばらホームクリニック